

全医連だより

2022年10月17日号 NO.70

一般社団法人 全国医師国民健康保険組合連合会

第60回全体協議会の開催

10月7日、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で3年ぶりとなった第60回全体協議会が、関東甲信越ブロックの主催、茨城県医師国民健康保険組合が担当し、水戸市の水戸プラザホテル「プラザボールルーム」において開催された。

司会は、河内重人茨城県医師国保組合常務理事と有働文子アナウンサーが担当。

主催ブロックを代表して尾崎治夫東京都医師国民健康保険組合理事長が開会挨拶。

続いて近藤邦夫全医連会長が挨拶に立ち、3年ぶりの開催を喜び合いたいとした。そのうえで、医師国保組合が抱える最大の問題は、第1に財務省が企図している定率国庫補助削減・廃止、第2が高額医療費問題であると述べ、これらによって医師国保組合が解散に追い込まれる事態となれば、国民皆保険制度の危機に繋がるとして、日本医師会や全協としっかり連携・協力して対応していくと発言。

来賓挨拶では松本吉郎日本医師会会長が、地域医療に従事する医師が安心して活動できるのは医師国保組合のお蔭と感謝の言葉を述べ、定率国庫補助削減・廃止は許さないと強力な支援を約束した。渡邊全協会長からも、定率国庫補助削減・廃止は理不尽であること、また今後、統合・合併の動きがあれば、それに要する費用への国庫補助の道を拓きたいとした。この後、茨城県知事（代理）、水戸市長（代理）、茨城県国保連合会会長（代理）が、それぞれ挨拶した。

議事は先行して行われた第15回代表者会と同様の形で行われた（次頁参照）。

議事に続き、講演に移り、第1席が篠原彰国保問題検討委員会委員長による「国保問題検討委員会中間報告」、第2席が茨城県歴史館特任研究員の永井博氏による「『水戸学』がめざしたもの—徳川齊昭から慶喜へ—」であった。

会議後の懇親会では、羽生田俊・自見はなこ両参議院議員も出席し、挨拶した。



第15回代表者を開催

第15回代表者会は、上述の第60回全体協議会に先行し、12時20分から開催され、出席会員は、45医師国保組合であった。

会議の司会は、河内重人茨城県医師国保組合常務理事が担当した。まず挨拶に立った近藤会長は、全体協議会の開催に当たられた関東甲信越ブロックの役職員とりわけ茨城県の役職員への感謝の言葉を述べ、「本日は、令和3年度の事業報告並びに



会計収入支出決算を承認してもらうほか、監事の選任があるので、慎重かつスムーズな審議をお願いしたい」とした。

その後、松崎信夫茨城県医師国保組合理事長が議長に選出され、議事を進行した。議長は、過半数の組合が出席しているので会議は成立と宣言し、議事に入った。

[議事]

- (1) 第1号議案 令和3年度の事業報告について。空地理事が説明。
- (2) 第2号議案 令和3年度の会計収入支出決算について。空地理事が説明。
- (3) 令和3年度監査報告。北澤監事が報告。
(1)、(2)ともに全員一致で承認した。
- (4) 第3号議案 全体協議会の運営について。松崎議長が説明。全員一致で承認した。
- (5) 第4号議案 全体協議会における決議案について。小原芳道茨城県医師国保組合副理事長が朗読。案のとおり承認された。
- (6) 第5号議案 任期満了に伴う監事の選任について。
空地理事から、第15回代表者会の終結を以って満了となる宇賀四郎監事の後任を近畿ブロックに推薦依頼をしたところ、依田純三京都府医師国保組合理事長が候補者に推薦された。依田理事長を全員一致で選任した。
- (7) 次期全体協議会開催地について
令和5年10月7日、近畿ブロックが主催、滋賀県が担当し大津市で開催することが承認され、越智眞一・滋賀県医師国保組合理事長が、抱負を述べた。
- (8) その他
 - ・村上博愛媛県医師国保組合理事長から、柔道整復施術療養費に関する問題についての発言があった。村上理事長は、愛媛県医師国保組合における柔道整復施術療養費請求の実態を調査したところ、不正請求が非常に多いことが判明した。については、柔道整復師施術療養費についても、償還払い制度に戻す取り組みが必要との問題提起がなされた。